寺社を巡る会

活　動　記　録　書

開 催 日： 平成 31 年 2 月 7 日(木)　天候　晴	開催テーマ： 「五木寛之・百寺巡礼」ＤＶＤ鑑賞
開催場所： 金沢地区センター　2 階大会議室	記 入 者： 大門　利晴

参加人数：

会　　員	男 31 名	女　6 名	計 37 名
ビジター	男　0 名	女　0 名	計　0 名
合　　計			37 名

実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題　など）：

【本誓寺】

真宗大谷派の寺院で能登地方最大かつ最古といわれるが創建年は不祥。江戸時代は幕府、加賀藩の宗教政策の一端を担った。境内は築地塀で囲われ本堂、山門、鐘楼、鼓楼、庫裡、書院等の伽藍が建ち並び当時の面影を残している。本堂は寛政年間に再建立されたものだが、堂々たるもので、豪快な茅葺屋根を保存している。「日本三大茅葺屋根」と言われている。

【妙成寺】

日蓮の孫弟子日像が開祖の日蓮宗の北陸本山で能登随一の大伽藍を持つ。天正年間、能登国主となった前田利家から寺領の寄進を受け、利家の側室からも帰依を受けその菩提寺になる等、その後も加賀藩前田家から手厚い庇護を受け隆盛を極めた。

【瑞龍寺】

加賀藩二代目藩主前田利長の菩提を弔うため三代藩主利常によって建立された。利常は利長に深くその恩を感じ七堂伽藍を完備、利長の法名瑞龍院に因み瑞龍寺とした。造営には約 20 年を要したといわれる。当時の寺域は三万六千坪、周囲に堀をめぐらせ、まさに城郭の観である。山門、仏殿、法堂が一直線に並び、左右に回廊をめぐらし諸堂を対称的に配置する伽藍配置は、茶、味噌等日本文化に影響を与えた中国の径山万寿寺に倣ったもので、江戸初期の禅宗寺院として高く評価されている。

【瑞泉寺】

明徳元年（1390）、5 代綽如上人によって開かれた。綽如上人は多数の念仏信者の浄財による建立を希望、天皇は勅願寺として建立することを許可された。越中に帰った綽如上人は直ちに「勧進帳」を作り、加賀・能登等六か国の有縁の人々から浄財を募り建立された。北陸の浄土宗の中心として多くの信者を集め、また越中の一向一揆の重要拠点ともなった。現在の本堂は明治１８年（1885）再建されたもので木造建築としては日本でも有数の建物であり、井波の大工、彫刻師が完成させた。太子堂は大正 7 年（1918）井波建築・井波彫刻・井波塗師の優れた技を集め再建された。大門（山門）は天明 5 年（1785）京都の大工により建て始められたが、京都本願寺の再建工事が始まったため、井波大工がその後を引き継ぎ完成した。

参加者の状況・意見など：

富山県、石川県には素晴らしい寺が多い。何処も訪れたことのない寺だったが、落ち着いた雰囲気が魅力的、是非行ってみたい。という感想が聞かれた。

次回の予定：

3 月 7 日（木）10 時　きらら鎌倉(鎌倉駅東口側)集合　テーマ「梅と密教四ケ寺」